

H23.3.23

川内博史先生

本資料は原子力安全委員会委員長の了解を得て提出するものです。

原子力安全委員長は単位放出量の影響予測については、

①国会議員の方々については要請に応じて提出可。

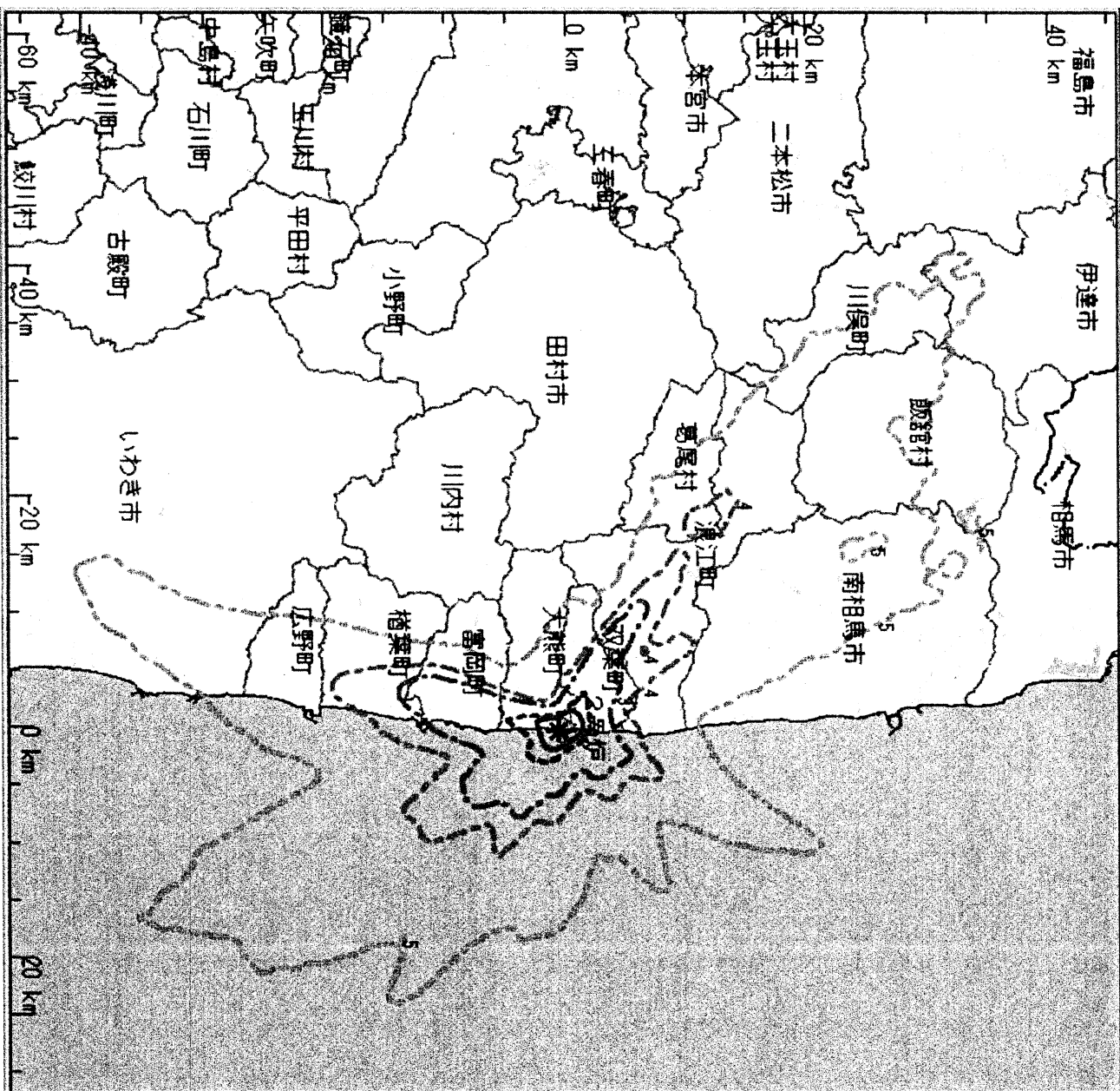
②対外公表については、官邸からの了解が必要との認識です。



森 口 泰 孝

文部科学審議官

文部科学省
〒100-8305
東京都千代田区千代田
FAX (03) 5581-7177
E-mail: ymorigu@mext.go.jp



内部被ばく臓器等価線量
 日時 = 2011/03/12 06:00 - の積算値
 2011/03/24 00:00

領域名 : 92km X 92km
 核種名 〓 ヨウ素合計
 対象年齢 〓 1歳児
 臓器名 〓 甲状腺

【凡例】
 線量等価線 (mSv)

- 1 = 10000
- 2 = 5000
- 3 = 1000
- 4 = 500
- 5 = 100

(評価)

本試算は、福島第一原子力発電所の事故発生後、連続して一日中屋外で過ごすという保守的な条件を仮定して、甲状腺の被ばく線量を試算した

SPEEDI(緊急時迅速放射能影響予測)ネットワークシステムは、原子力施設から大量の放射性物質が放出されたり、あるいは、そのおそれがあるという緊急時に、周辺環境における放射性物質の空气中濃度や被ばく線量などを、放出源情報、気象条件および地形データをもとに迅速に予測するシステムです。

国・地方公共団体は、SPEEDIネットワークシステムが予測した情報により、周辺住民のための防護対策の検討を迅速に進めることができます。